別紙様式

令和４年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	附属旭川「12 年教育」の実現 －多様な人と関わり豊かな人生を切り拓く人材の育成〔小学校編〕－
事業実施代表者名	斉藤　誠
実施附属学校名	附属旭川小学校
事業内容 （実施内容について、1,000 字程度で記述）	これまで旭川地区で進めてきた幼小中の「12年道徳」を踏まえ，今般求められるグローバル化・ダイバーシティ社会への対応を見据えて「12年教育」として取組を拡充するものである。 幼稚園で育成している非認知能力等の基盤を上に，多様な価値を認め，協働していくための土台となる道徳性やGRIT（やり抜く力），情報活用能力を伸ばし，探求する力を高めていくため，道徳教育及びICTを活用した教育の充実，自ら問いをもち粘り強く探究する学習指導の充実，学習状況を継続的に把握できる評価方法等の整備に係る調査・研究を実施してきた。 １　道徳性の向上 幼稚園・小学校・中学校の 12 年間を見通し，各学校種間や家庭・地域との連携を図った道徳教育の充実も目指しており，協働して課題解決を図る際の土台となる「多様な価値を認め合う」こと，とりわけ「思いやり」等の道徳性の育成に重点を置いて取り組んでいる。 道徳性の伸長は，教育活動全体をとおして実施するものであるが，道徳科の授業改善がそのための要となるものであると校内で共通理解を図っていることから，道徳科の授業改善を本事業の取組の柱ととらえ，研究を継続している。 授業改善に当たっては，道徳教育推進教師を中心として教育課程の見直し，日常的な授業改善を継続的に進めるとともに，校内研究授業等の機会を活用し，目指す教育課程・授業改善の方向についての検討・共通理解を図ることで，個人の取組ではなく学校全体の取組として本事業を推進している。 取組の成果を継続的に把握する評価材料としては，道徳性検査（HUMAN）を活用している。 ２　GRIT（やり抜く力）の伸長 iPad や Chrome 端末，大画面インタラクティブモニター等を組み合わせ，個別の学びと協働的な学びを往還しながら学習することができる授業を構築することで，GRIT や探求する力を効果的に高めていく方法について授業実践をとおして改善・検証を図っている。 GRIT とは，Guts（度胸）「困難なことに立ち向かう能力」，Resilience

	（復元力）「失敗しても諦めずに続ける力」，Initiative（自発性）「自分で目標を見つける力」，Tenacity（執念）「最後までやり遂げる力」のことであるが，本校では，「探究する子ども」の育成を学校研究の主題としており，GRIT の育成に当たっては，学校研究と密接に関わらせた研究を継続している。 実際の授業においては，自ら問いをもち粘り強く探究する学習指導の充実を図るため，課題意識の醸成や課題解決のための探究方法の工夫･改善等を図っており，Zoom を活用して地域の専門職の方から説明を受けたり，自分たちの考えを伝え，助言を受けたりするなど，GIGA スクール構想で整備された教育環境も生かしながら研究を進めてきた。 取組の成果を継続的に把握する評価材料としては，道徳性検査（HUMAN）を活用している。 ３　情報活用能力の育成 情報活用能力については，とりわけ小学校から中学校への接続を意識しながら教育活動を進めてきた。 第１・２学年では，iPad を使用して植物の成長の様子を撮影し，メモを加えてプレゼンやポートフォリオを作成したり，他者と画面共有・意見交換しながら様々な気付きを促すなどの取組を進めてきた。 第３～６学年では，中学校で使用しているものと同じ Chromebook を端末として採用し，テキスト入力，思考ツールの活用，共同編集，意見交換，遠隔授業，プレゼン，ポートフォリオなど，多様な方法で ICT を活用しながら，情報活用ができるような取組を進めてきた。 併せて，情報モラルや情報発信等に伴うリスク等についての学習も進め，幅広く情報活用能力の育成を図ってきた。 取組の成果を継続的に把握する評価材料としては，デジタル・情報活用検定（P プラスジュニア）を活用している。
成果と課題 （活動の成果と課題について、500 字程度で記述）	○　上記１，２にかかわり，道徳性および GRIT の向上を図るため，全校で授業改善等を推進した結果，道徳性検査の関係項目において，次のような成果があった。 ・「より高い目標を立て，くじけないで努力することができる。」と回答した児童の割合が 90%を超え，全国平均よりも 3.2 ポイント高い。 ・「真理を大切にし，物事を探究しようとする心をもって生活している。」と回答した児童の割合が 90%を超え，全国平均よりも 4.8 ポイント高い。 ・「謙虚に広い心で，自分の意見も相手の意見も尊重することができる。」と回答した児童の割合が 90%を超え，全国平均よりも 1.0 ポイント高い。

	・「誰に対しても思いやりをもって，相手の立場で親切にする。」と回答した児童の割合が 90%を超え，全国平均よりも 5.8 ポイント高い。 ○　情報活用能力の向上を図るため，全校で日常の学習活動において ICT を積極的に活用する教育活動を推進した結果，第６学年のデジタル・情報活用検定の各項目において，次のような成果があった。 ・「情報が社会や人々に及ぼす意味や効果が分かり，情報を安全に使える」ことを測る「情報モラル･セキュリティ」に係る設問の正答率が 75.6%であり，全国平均よりも 6.1 ポイント高い。 ・コミュニケーションや問題解決のために，デジタル機器を使って，情報を上手に整理したり表したりできる」ことを測る「情報活用」に係る設問の正答率が 77.9%であり，全国平均よりも 11.2 ポイント高い。 ●　客観的な指標で全国平均を超える情報活用能力があることが分かった。今後も継続して成果を確認するとともに，道徳教育，GRIT，情報活用能力・情報モラル教育の充実を一体的に進めていくことが必要である。
今後の発展性 （残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500 字程度で記述）	○　道徳性検査を活用し，客観的な指標を生かした授業研究を継続しており，今年度は，情報活用能力の伸長について児童の実態を把握することができた。今後は，卒業生の検証結果と併せて分析し，12 年教育の中で小学校が担う資質･能力を把握し，授業改善につなげる方法について模索する。 ○　オンラインの遠隔システムを活用し，双方向同時接続の授業において，多様な人とコミュニケーションを図りながら課題を解決する経験を児童にさせるなど，広がりのある学習をとおして，道徳性や GRIT の育成を図っていく。
事業の公表状況 （事業をＨＰで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入）	○北海道通信（令和４年 12 月７日発行） 日本教育新聞（令和４年９月 26 日発行） ※「【様式１－１～１－４】附属学校の役割について（R4 中間報告）」の別添資料「13　041207 道通（授業力向上セミナー・道徳）.pdf」「08　040926 日本教育新聞「GIGA スクール研修会」.pdf」として提出

（注）当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。

支出実績額内訳　　（附属学校名　附属旭川小学校）

区　　分	予算額	支出実績額	内訳（簡潔に記載すること）
		千円	
旅　　費			
謝　　金			
備 品 費			
消耗品費	331	341	
HUMANⅢ新道徳性検査用教材		203	検査教材（各学年児童数分 計 398 冊） 実施手引（各学年クラス分 計 12 冊）
ZOOM ミーティングライセンス		46	@6,600×7
ZOOM ミーティングライセンスウェビナー		92	@92,400×1
そ の 他			